

いまいき農業高校 第九回

北海道名寄産業高等学校



北海道名寄産業高等学校名農キャンパス



一 地域産業の特徴

北海道の北に位置する名寄市は、天塩川と名寄川が豊かな恵みをもたらす、そこに広がる名寄盆地では作付面積が日本一のもち米、北海道有数の作付面積・収穫量を誇るアスパラガスなどを生産している、農業を基幹産業とした都市です。

観光においても、夏のひまわり

り畑や冬のサンピラー現象など四季でたくさんの魅力が感じられる場所として知られています。

二 学校概要

北海道名寄産業高等学校は、道北地域の産業を支える人材の育成を担う高校として、前身の北海道名寄光陵高等学校と北海道名寄農業高等学校の統合によって開校した、道内初の産業キャンパスによる職業学科集合型の専門高校です。

なかでも本校の酪農科学科は、旧北海道名寄農業高等学校の時代から受け継がれる伝統を守りながら、道北農業の担い手を育む学科として重要な役割を担っております。本校では二つの広大なキャンパスを有しており、酪農科学科が主に農業実習を行う名農キャンパスには、二〇ha以上の採草地を始めとする広大な実習

圃場があり、日々の学習に取り組んでいます。

酪農科学科の生徒の約六割は「創俊寮」に入寮し、親元を離れて生活をしていきます。寮生活、農業実習ともに上級生が下級生を指導する伝統が定着しており、本校牛舎での早朝搾乳実習では、毎年二・三年生の先輩が新入生に直接搾乳方法を教えるのが受け継がれてきた伝統です（写真1）。



写真1 先輩達が新入生に搾乳方法を指導する様子



写真2 初めての実習で水稲の播種を行うのも本校新入生の伝統です

三 教育内容

酪農科学科の生徒は約四割が農業後継者であり、カリキュラムにおいても、後継者育成を柱とした教育課程を編成し、「農業と環境」など一学年における教科から体験的な活動による学び（写真2）を行っており、一学年からは「畜産環境コース」「農業科学コース」に分かれ、道北

農業の現状に合わせた専門性を深める農業教育を展開しています。あらゆる教科において、主体的・対話的で深い学びによる授業を取

り入れ、持続可能な社会の創り手として求められる多様な資質の向上をねらいとした教育を行っています。

四 地域に貢献する教育活動①

酪農科学科では、農業教育を通じて名寄市の基幹産業である農業だけでなく、過疎化する地域の発展に寄与し、地域に必要とされる存在になるという意識を教職員・生徒全員で認識するように心がけております。生徒が自ら課題を探索し、解決方法を模索するプロジェクト活動においては、地域課題の解決や地域と連携した活動に意欲的に取り組んでおります。今は、名寄市の観光資源であるひまわりに注目し、特産品であるひまわりオイル（北の耀き）の製造過程で、小さすぎず搾油できず廃棄されているひまわりの種を家畜の飼料として活用する取り組み



写真3 ひまわりの種を飼料として給餌する様子

を行っています。このひまわりオイルは、オリーブオイルを上回る豊富なオレイン酸やビタミンEが含まれており、現在は、本校で飼育している乳牛と産卵鶏が生産する生乳と鶏卵の栄養価に及ぼす影響を研究しています(写真3)。

この研究は、地域産業の活性化につながるものと考え、複数の専攻班が連携し、

家畜への飼料給餌試験、生乳や鶏卵を活用した商品開発試験などに取り組んでいます。これまでの研究段階では、産卵鶏への給与試験で鶏卵のオレイン酸含有量は一・二六倍、ビタミンEの含有量は三・七倍と栄養強化卵に相当する数値の向上が見られました。乳牛においても、給与試験を行った結果、生産する生乳でオレイン酸含有量ではわずかな数値向上が見られ、非常に高い嗜好性も確認できたことから、今後も給餌量や給餌期間などを比較しながら、引き続き検証を行っていく予定です。

この活動は昨年度、第三回全国高校生農業アクション大賞で、全国七〇のグループの中から三年間の活動を支援する認定一五グループに選出されました(写真4)。二〇二二年に大賞を選ぶ審査が行われるので、それまで研究↓活用↓観光の段階へ進めていき、地域に貢献できる活動に



写真4 第3回全国高校生農業アクション大賞認定式に出席

なるよう研究を続けていきたいと思いません。

五 地域に貢献する教育活動②

酪農科学科では、これまで地元小学生を対象とした連携学習に長年取り組んでいます。各学年で、動物教室・水稻教室(写真5)・加工教室など農業の幅広い分野の理解を深めてもらい、農業の魅力



写真5 連携学習で取り組んでいるもち米の田植え教室

知ってもらうための一環として行っています。酪農科学科の生徒たちが先生となり、自らで準備して子どもたちに教えていくため、生徒にとっても自らの学びを反映させやすい効果の高い取り組みになっています。

その他に農業クラブ執行部が中心となって実施しているのが「農場公開」です。自分たちの活動を地域へ還元するための取り組みとして、年に三回実施しています。農場公開が開催される日は季節によって、花・野菜苗の販売会や農場スタンプラリー、ひまわりカフェの他、作付面積日本一を誇る名寄市ならではのもち米販売会などのイベントが開催されます。

また市内で行われるイベントにも積極的に参加しており、昨年度は地域振興班が名寄市観光交流振興協議会と連携して毎年実施している、「なよろひまわりまつり」のひまわりカフェの様子をSTV



写真6 どさんこワイド朝にて紹介されたときの写真です

朝の情報番組、「どさんこワイド朝」にて紹介されました(写真6)。放送後は、多くの観光客が来店され、たくさんの商品を買ってくださり、地域を盛り上げる取り組みとなりました。

六 持続可能な社会を

牽引する人材育成

北海道名寄産業高等学校酪農科学科では二〇一九年度より、持続可能な社会の創り手となることを目指し、SDGs (Sustainable Development Goals) の取り組みを推進しています。昨年度は二〇三〇SDGs公認ファシリテーターによるワークショップを開催し、クラブを開設し、クラブ全員でSDGsの本質の理解に取り組みました。理解を深めたことで、クラブ員は校内で実践する自分たちの活動と



写真7 SDGs×北海道交流セミナー2020に出展した時の様子

令和2年度 北海道名寄産業高等学校 酪農科学科【SDGsアクション】

名寄産業高校の学校農場
を活用したESD開放講座
(講座名:なよろESDファーム)
Education for Sustainable Development
(持続可能な開発のための教育)SDGs達成に向けた人づくり

実践①農場公開→開放講座
実践②近隣小学校連携学習
実践③スマート農業講習会
実践④農業女子の啓発活動

今年度実施予定だったなよろESDファームの紹介



写真8 本校農場で行った無人トラクター実演講習会

SDGsの紐付けを行い、「北海道名寄産業高等学校農業クラブ二〇三〇アクション」なる行動計画を策定し、今何をすべきか考えて行動できるようにしました。その活動成果も、二月に北海道大学で行われた「SDGs×北海道交流セミナー二〇二〇」のポスターセッションに出展し、高く評価を受けました(写真7)。こ

れらの実績を積み重ねてきたことで、北海道の高校生では初めて北海道SDGs推進人材バンクにも登録されました。今後は、持続可能な社会の創り手として地域を牽引できる存在として活動していきたいと考えています。

今年度は、北海道名寄産業高等学校の学校農場を活用したESD (Education for Sustainable Development) 開

放講座（講座名：なよろESDファーム）の実施に向けて準備を進めています。私たちは、近隣の小学生を対象とした食農教育や、スマート農業の講習会（写真8）、農業女子の啓発活動などに取り組み、SDGs17のゴールを達成するための小さなアクションを起こすことを目指しています。残念ながら、社会の状況は大変であり、当初予定していた活動がなかなかできていない状況ですが、みんなで工夫し、新たな活動を実践していきたいと考えています。

七 道北農業の担い手とつづ

酪農科学科の生徒は、少人数ながら約四割が農業後継者であり、将来は道北地域の農業を支える貴重な人材です。酪農科学科の活動を支援してくださっているのが、生徒の出身市町村関係者や近隣農

協で構成されている、「道北農業担い手育成対策協議会」（写真9）であり、協議会の会長も務める地元の名寄市長を始めとする多くの関係者からも「地域を担う産業人として、とても期待しています。」と声をかけて頂く機会も多く、道北地域における酪農科学科の存在意義は大変大きなものです。

校訓「北を拓く」にはこれからの新しい時代を切り拓いていく人を育むという想いが強く込められております。酪農科学科の生徒には、様々な課題に正面から向き合い、自ら考え、自ら行動することで新しい道を切り拓く人間になってほしいと考えております。北海道名寄産業高等学校酪農科学科では道北農業を支える担い手をこれからも多く育んでいきたいと思っております。



写真9 道北農業担い手育成対策協議会で激励の言葉をかけてもらう様子

※執筆・写真提供は、教諭 金持達朗先生にご担当頂きました。